

公益財団法人原田積善会

団体情報

代表者 （理事長） 稲垣 裕志

住 所 〒158-0082 東京都世田谷区等々力 3-33-3

WEB サイト URL <http://www.haradasekizenkai.or.jp/>

次の100年に残る助成財団へ

原

田積善会は1920年（大正9年）に三重県松阪市出身の財界人原田二郎により創設されました。本年（2020年）は**創設100周年**に当たります。原田二郎は、大阪鴻池財閥を再建させるなど実業家として東京や大阪で活躍し財を成したのち、晩年全財産をもって当財団を創設しました。

皆さんは、朝ドラ「あさが来た」はご覧になりましたか。主人公広岡浅子（本名）は京都三井家の生まれで大阪の両替商

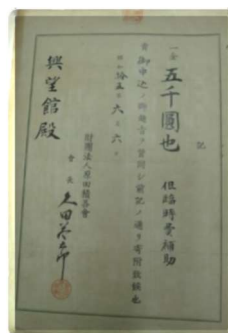


原田二郎氏 遺影

加島屋に嫁ぐと家業を発展させ、大同生命を創設する一方、日本女子大を創設する社会事業家でもありました。原田二郎と広岡浅子の二人は偶々、同い年の生まれ、同じ時期に大阪で金融業を立て直し、やがて社会事業に貢献しました。明治維新以降に国家が発展する中、生じた社会の歪みやセーフティーネットの不足を見過ごすことができなかったのでしょう。

現在はどうでしょうか。豊かになった社会ですが、格差拡大による子どもの貧困や貧困の連鎖、相次ぐ児童虐待の発生といった社会的課題は山積しています。国の借金が積みあがる中、こういった課題への財政的支援の増加は望めません。今こそ民間による共助が求められており、またその実現に創意工夫が必要になっていると思います。

原田積善会はとてもユニークな助成財団です。そもそも助成財団というのは、直接、自身が事業（例えば社会福祉事業）を行っているのではなく、事業を行う団体（実行団体といいます。）に資金的な援助を行う組織です。近頃は伴走支援と言って経営指導など非資金的な支援も付随的に行う場合もあります。さて、原田積善会の特徴ですが、まず、助成活動一筋に100年の歴史ということです。これは、我が国の



養護施設興望館発展に寄与した戦前の寄附目録

社会福祉の歴史と重なるというべきもので、実際、戦前・戦後を通して助成活動を行っている財団は極めて珍しいと言えます。何故なら、戦後の超インフレで財産を失うなど幾多

の困難があったためです。二つ目の特徴は、当会は独立系でどこの企業にも属さないということです。多くの日本の財団は特定の企業からの基金の拠出などを受け、有形・無形の支援の基に活動を行っていますが、私どもはそうではありません。もちろん、政府からの補助金などもなく、純粋に民間の共助を実践している財団です。三つ目の特徴は、全国ベースで活動しているということです。公益団体は、特定の地域で活動している団体も多いのですが、当会は創設当初から日本全国の実行団体に助成を行っています。もちろん、オフィスが東京ですから、首都圏の助成先が多いのですが、後述の様々なネットワークで助成先は全国に広がっています。さらに、創始者の故郷である三重県松阪市では、長年、当地の様々な地域創生活動を支援しております。



創設者原田二郎郷里の松阪での桜植樹事業

最後の特徴は、助成の原資を、これまで、創設者の出資金の運用益のみで賄ってきたということです。このことは、私どもが純粋に社会福祉を求めるという点でプラスであったと考えていますが、我が国が豊かになり、また高齢化を迎えている今、私どもの創設者がそうであったように、財産を社会福祉活動に活用したいというニーズが高まっていると思います。そこで私どもが寄付を受け入れさせて頂き、助成活動をさらに活発化することが必要と考え、方向転換を行いつつあります。

当会は助成団体として規模は決して大きくはありませんので、行政と民間の狭間にあるニッチなニーズを捉えて、スピードと柔軟性をもって、様々な実行団体への資金支援を行うよう努力しています。長年培った既往助成先のネットワークや社会福祉協議会や共同募金会からのご紹介に加え、近年はホームページ経由で直接の助成要請も多く寄せられます。



至誠学舎の支援するカンボジア児童たちがお礼に来会

当会の助成対象は、全体の7割程度が社会福祉関係です。その中でも若者の支援に注力しており、児童養護施設退所後の自立支援、子どもホスピス等の医療関連、障害者の介護や自立支援、自殺や虐待の防止等多岐にわたっています。その他、東京消防庁の救急事業への支援、日本学士院等の学術・研究への支援も行っております。さらには、最近の大規模自然災害の被災者支援のための助成も行ないます。



日本学士院での若手研究者受賞式

我が国救急事業の
出発点となった
米国製救急車の寄附



玉川消防署への
啓発活動用子ども
救急車寄贈

さて、これらの助成原資は、これまで創始者の寄附財産の運用により賄われてきましたが、当会では助成活動活発化のために、寄附金の募集を開始しました。創始者の志を受け継ぐ私どもの事業にご賛同いただける方からのご寄附をお願いいたします。詳しくは私どものホームページの寄附金募集要項をご覧ください。これに当てはまらない不動産などの特別の寄附については別途個別ご相談ください。

本年は当会が新法で公益法人になって10年目の節目でもあります。この間様々な場所で議論されてきた公益法人に課せられた公益3原則の制約や、寄附税制の問題などが緩和されることを望みます。そして何より私どもが時代に即した助成に努めることで、次の100年に残る助成団体になりたいと考えております。

執筆 理事長 稲垣 裕志

(プロフィール)

京都大学法学部卒業

元(独)国立病院機構理事

元あおぞら銀行取締役専務執行役員

